

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400663		
法人名	社会福祉法人杜の会		
事業所名	グループホーム福井倶楽部		
所在地	札幌市西区福井4丁目14-18		
自己評価作成日	令和6年1月4日	評価結果市町村受理日	令和6年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=0190400663-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム福井倶楽部は民家改修型のグループホームです。家庭的な雰囲気の中で皆で助け合いながら生活しています。居間の窓からの眺望は素晴らしく、四季折々の景色や花火もみることができ楽しみの一つとなっております。誕生日のお祝いにはそれぞれの誕生日当日に利用者によるピアノ演奏や誕生日食を食べお祝いをしており、月に3回誕生日会がある月もあります。また、町内会の行事や地域との関係作りにも力を入れており、今年度は町内会の行事も参加する事が出来ました。系列施設の理学療法士や管理栄養士、看護師の訪問や指導の下皆様が元気で安全に過ごせるようサービス提供に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年1月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西区福井の閑静な住宅街の中、趣ある外観の民家改修型の事業所である。母体法人は近隣地で介護、福祉施設や事業を展開しており、1ユニット9名の利用者を側面から支えている。事業所は、コロナ禍前の状況に戻すことを今年度の目標にあげ、町内行事に参加し、買い物やドライブ、家族との外出や自宅外泊など、近年の自粛生活を払拭できるよう活動を重ねており、利用者の明るい笑顔が弾けている。事業所の日常は、利用者を中心において時間が流れ、日課のピアノ演奏、得意の調理を手伝ってもらい、好きな歌手の歌を教えてもらっている。利用者その人にとっての暮らしはどうかの視点は揺るぎなく、認知症の理解と一人ひとりに向けた深い洞察が利用者の和やかな生活を作っている。好みや彩り、季節感、栄養バランスに配慮した手作りの食事、医療連携による健康管理、職員の力量や気づきを引き出す仕組み、質向上への研修体制など、特筆される点が多い。家族とも密な連絡や書面で意向や要望等の聞き取りを行い、地域も含めて様々な人達との関係も良好に続いている。認知症支援本来の柔軟な対応も事業所の持ち味であり、経験豊富な管理者を中心に職員は力を尽くし、日々利用者の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示をしているが、コロナの感染対策の緩和に伴い今年度は理念の他に元の生活に戻す事を目標に取り組んでいる。	理念はケアの礎として掲示し、新職員はじめ全職員の共有となっている。今年度は特例として、コロナ感染症5類移行を機に以前の生活を取り戻すことを目指し、積極的な取り組みに成果を上げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや系列施設の夏祭りに参加した。1月は町内会のお楽しみ会に参加予定。散歩の時等近所の方と会話したり野菜を頂いたり交流できている。	近隣住民とは通常通りの良好な関係であり、野菜の差し入れを受けたり、大雪時には事業所の融雪槽を開放している。系列施設開催の夏祭り、町内の祭りやお楽しみ会には利用者と参加し、久しぶりの交流再開を実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の回覧板にホームの広報誌を入れてもらい活動やホームでの様子を知っていただいているが、認知症の人への理解や支援の方法までは発信できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より対面の会議を行っている。活動の報告等行い情報を共有している。	会議は定期的に行い、感染状況を鑑み書面や対面で実施している。家族や地域代表、行政関係職員の参加により、利用者状況や活動面、事故やヒヤリハット等を報告している。構成員から意見や地域性のある情報を得て、運営や利用者の豊かな暮らしにつなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に連絡を取る事はなかった。生活保護利用者においては必要時担当者と連絡を取り合っている。	管理者は必要時に市や区の関係部署と連絡し合い、各種の報告や情報交換を行っている。保護費関係や介護認定更新等でも担当職員と連携し、利用者の安心生活を支えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体的拘束等適正化の為の対策検討会議を行い議事内容を職員に周知している。日常的に不適切なケアの確認や内部研修を行い気づきの機会を設けている。職員の入れ替わりもあったので周知徹底に努めたい。	定期的に行った身体拘束適正化及び虐待防止検討委員会の内容は職員の理解を確認し、周知の徹底化を図っている。言葉については繰り返し事例を取り上げ適切なケアの気づきを導きだしている。建物構造上、玄関は施錠しているが、外出の意向はその都度寄り添い、利用者の安心の居場所作りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのオンデマンド研修は全職員受講した。内部研修や接遇、不適切ケアのチェックを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいなく活用していない。今後研修等で学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の時等事前に話す機会を多く持つようにしている。入居時管理者が説明を行い、理解、納得をしてして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時管理者が苦情の窓口の説明をしている。ご家族にはこまめに近況報告を行い、必要時は相談等行い要望等も随時確認している。	家族とは接点を多く持ち信頼関係を築いている。毎月利用者の日常を切り取った写真満載の便りを届け、電話やLINE動画で近況報告をしている。年数回、文書でケアに対する意向や要望を聞き取っている。運営に向けた意見は殆ど無いが、課題が生じた場合は検討して解決する方針である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部との個人面談あり。法人内の運営会議が月1回あり、管理者が出席している。運営会議の議事録は全職員は確認している。	法人内の職員異動があったが、管理者は各場面で話しやすい場面を作り意見や提案を吸い上げている。法人本部とは随時事業所の現状を共有し、職員は年3回の面談や本部主催の内部研修や伝達研修で、モチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、昇給制度、寒冷地、年末年始手当等あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修が月1回以上あり都度代表者が受講し伝達している。外部研修は虐待防止の研修をオンデマンド研修で全職員受講した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西区の管理者との交流の場面があったがその他はなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常的に個別で関わる時間を作り、関係作りに努めている。担当職員、計画作成担当者がアセスメントを行いケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时に可能な方はゆっくり話を伺ったり、ホームの雰囲気や活動をお伝えしている。入居前までこまめに連絡を取って関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確認しながら必要な支援について話し合っている。他のサービスの利用はない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や生活歴を大切にしながらできる事、したい事を本人の視点で考えなら対応している。出来ない事は一緒にやったり教えてもらったり助け合えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は家族参加の行事を行う事ができたり、受診や外出で家族と一緒に過ごす時間が増え笑顔が多く見られた。定期的に手紙や画像で近況報告を行い家族に安心していただけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会、電話、手紙等で家族、親戚、友人との関係が途切れない様配慮している。	関わりの中で利用者の大切な人や場を理解し、面会対応に生かしている。利用者は外食や自宅帰宅、馴染みの美容室に家族と出掛けている。親族や友人との面会や外出もあり、本人の近況を伝え認知症の理解を促しつつ、今までの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や関係性を考慮し、必要時は職員が介入しながら利用者同士の関わりが持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在相談等はないが退居時に何かあれば相談出来る事はお伝えしている。過去に退居後相談してくれたケースがあった。退去後も連絡をくれたり年賀状のやり取りをしている家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中やアセスメント等で本人の言葉や思いを把握し情報を収集し共有している。	生活の中で好きな事やしたい事などを把握し、職員全体で共有している。家族とも話し合い、本人の意向を押し量りながら、望む過ごし方になるよう日々の支援や介護計画に反映している。最終段階での過ごし方についても定期的に聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し職員間で情報交換しながら把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり意見交換を行いながら職員や家族と情報を共有している。本人や家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。	日々の記録を参考に、モニタリングやカンファレンスを通して職員の気づきを捉え、理学療法士や主治医等の意見を参考に現状の課題に即した介護計画を作成している。自立支援を基本に、好きな事や得意事を生かしながらの生活ができるよう計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かく記録している。職員間で情報を共有しながらケアプランの実践や見直しに活かしているが利用者によって記録が少ない事がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今現在特に取り組みはないが、都度柔軟な対応ができる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族と協力しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来ている。今年度は系列施設の夏祭りも家族と一緒に参加したり、町内会の行事にも参加できた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回いまいホームケアクリニックで定期的な往診を受けているが、必要時家族対応でかかりつけ医を受診している方もいる。	医療受診は、本人と家族の意向に沿っている。月2回の内科医による訪問診療、皮膚科、歯科も往診態勢が取られ、系列施設看護師による日常の健康管理など安心できる医療体制である。専門科は家族が付き添い、受診状況や結果は関係者で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度系列施設の看護師の訪問あり。都度報告、相談をしている。往診医には何かあれば往診時以外にも都度報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに介護添書を提供し安心して入院生活が送れるよう対応している。入院中は連絡を取り合いながら退院後の生活について相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には定期的に終末期についての意向を伺っている。歩行状態等のADLの変化があった場合は都度報告、相談をして検討をしサービス提供に努めている。	契約時の説明と状態変化の都度、家族と話し合い、主治医の診断を経た終末期では、家族や職員、関係者で今後の支援方針を確認している。職員は環境を整え好きなものを用意して、その人らしい終末が送れるよう、できる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	系列施設の内部研修で行っているが、全職員定期的に行えてはいない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修や災害時訓練を行っている。災害時用の非常食や暖房類等定期的に確認を行っている。随時利用者の状態を考えながら避難の想定をしている。地域と協力体制はあるが合同の訓練は行えていない。	地震後の火災を想定した避難訓練を行っている。併せて非常用の食料や備蓄品、暖房等機器、避難場所等を確認し、職員の危機意識の強化に努めている。法人本部との連携、地域からの協力も得られる体制である。	年度2回目の火災等避難訓練を予定しており、入浴時など各種場面を想定した対応の検討やシミュレーション、実践訓練等を期待する。また、年1回程度、家族への避難場所の報告、周知も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持、本人本位の対応に心掛けており、それぞれにあった声掛けや対応をしている。定期的に接遇や不適切なケアのチェックを行っている。	職員は、年数回不適切ケアのチェックを行い、現状課題も項目に加えて検証し認識を新たに行っている。排泄時はさりげない隠語でトイレ誘導をし、自立支援の下、できる限りの配慮を本人と相談して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でそれぞれの能力に合わせながら自己決定出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の視点を大切にしながらそれぞれのペースを尊重した対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみには配慮している。行事や外出時にはおしゃれをしたり一緒に服を選んだりしている。マニキュアを塗っておしゃれを楽しまれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	都度献立の見直しや改善を行っている。利用者それぞれの能力に合わせて楽しい雰囲気の中で一緒に食材を切ったり、盛り付けを行っている。	栄養指導を受け、彩りや味、柔らかさや好み、器等も配慮している。生活の必然として利用者も食事作りに参加し、恒例の梅や漬物作りは利用者に教えを乞うて一緒に作っている。メニューも豊富で季節感を楽しみ、時にはテイクアウトも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回系列施設の管理栄養士の訪問があり栄養指導を受けている。量や器等それぞれの状態に合わせて提供している。時間をずらしたり他の物で代用したりと都度柔軟な対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った用具を使用し口腔ケアを行っている。介助が必要な方は口腔状態の把握が出来ているが自立している方は把握出来ない事もある。必要に応じて歯科往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛け、それぞれの排泄パターンに合わせた時間の声掛けや都度パットの大きさを検討している。夜間ポータブルトイレを使用している方1名。	現在は、ほぼ全員が歩行が可能で、トイレでの自立排泄を支援している。排泄機能の低下では個別に応じ、適切な下着や衛生用品の使用を検討している。夜間の同性介助の希望に沿えるよう本人と話し合い、介助法を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品の提供、適度な運動を行い予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日の午後に入浴を行っているが本人の希望に合わせて午前中や日曜日に行う事もある。入浴剤を使用し、好みの温度にしたり音楽をかけたりしながら入浴を楽しめる支援をしている。	週2回の入浴支援であり、できる限り希望に応じている。拒む言葉は受けとめ、本人のタイミングを見計らい利用者優先で柔軟に対応している。好きな音楽を掛け楽しい雰囲気作りで、1対1の会話が弾む時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室や居間でそれぞれが自由に休息している。夜は眠たくなったらそれぞれ自室に戻られている。随時寝具や室温の調整を行い気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報はファイルに綴じてあり各自すぐに確認できる様になっている。薬の変更時は職員間で情報を共有している。気になる事は薬剤師に質問している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好品や役割を活かした支援をしておりケアプランに反映したサービス提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの嗜好や役割を活かした支援をしている。今年度は外出する機会も多く、ホームの行事以外にも町内会の行事や個別での買い物、ご家族、友人との外出の機会も多かった。	5類移行後は戸外活動に注力している。ベンチで日光浴、散歩や買い物、近郊へのドライブを楽しみ、家族や友人と外食に出掛けている。利用者の希望を確認して系列法人の祭りや町内会のイベントに参加し、住民とふれ合い気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が管理をしているが個人の買い物の際は支払う機会もある。今年度は買い物に行けたので今後もお金を支払う機会を提供していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙でやり取りしている方は数名のみ。目が見えにくくなって手紙を書くのをやめてしまった方もいるが今後も継続できるように支援していく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節に合った花の飾りや装飾品等飾っている。音に配慮して不快感や混乱を招かないようにしている。居間の窓からの眺めが良く季節毎の景色を楽しまれている。	2階の食堂や居間からの眺めは素晴らしく、遠くの連峰や三角山、夏場の花火大会も楽しめる景観で、利用者の心を癒している。明るく程良い広さがあり、家庭的な調度類、椅子やソファの配置も工夫し、数名や一人で寛げる環境も作っている。温・湿度や換気、気になる刺激に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはそれぞれ好きに過ごされているが、他者との関係を考慮しながら状況に応じて居場所作りの工夫をしている。ソファも離れた所に3カ所あり少人数や独りで過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物や家具を持ってきてもらっている。家具に関しては配置を家族と相談しながら行っており、何かあれば都度相談している。仏壇や観葉植物、家族の写真等飾っておりそれぞれ個性的で居心地良く過ごせる部屋となっている。	収納スペースを備えた各居室は設えに違いはあるが、個性的な居室になっている。入居の際は使い慣れた物の持参を促し、大切なものや家族の写真、卓上ピアノやハーモニカなど趣味の楽器も持ち込まれている。家族と相談して転倒予防策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や段差はあるが手摺りや滑り止めをつけたり可能な所は段差をなくしたりしている。貼り紙を貼り場所がわかる様にして手摺りを使って安全で自立した生活を送れる様にしている。		